

リビング・スペース

天井高さに変化を、横方向にも連続性を

部屋の広さや大きさは、平面的な場合と**スペース/空間**のボリュームを指す場合があります。

広さについては、平面を言い2次元のこと。大きさは、平面や立体に対してですが空間を指すこともあります。スペース/空間は、最近の表現では3D、3次元のことをいいボリューム（量）ともいっています。

室内の規模をいうときは、平面的大小を言い、スペース/空間についてどうなっているかを説明することはほとんどありません。

一般的に個室などの小部屋は、広さ・大きさで言ってもいいのですが、リビングの場合は、広さ・大きさと共にスペース/空間の大きさもその状態を言い表す必要があります。

一般的に空間の大きさは、高さについてはほとんど明示はしてありませんが、日本の住宅の天井高さは、**2.4Mが標準**となっていてリビングの天井高さも2.4Mが普通です。

建築基準法で住宅の居室の天井高さは、2.1M以上となっています。

なぜ2.4Mなのかは、昔の8尺が基準となっているようです。といっても8尺を標準として7尺から10尺程度の寸法の部屋も見られます。

現在2.4Mになっているのは、柱や材木の定尺の関係や障子・襖の大きさ、施工上の作業性などの条件によるようです。(6尺+2尺=8尺)また、今日的生活条件として暖冷房の効果が高いこともあげられます。

リビングルームは家族みんなの場であることから広い部屋を求めますが、活動をする皆が集まる場所が2.4Mの天井の高さでは圧迫感が生じます。少し標準より高くして変化を持たせるのも一方法ですし、部屋を連続させ水平方向に広がりを持たせるのも効果があります。

・広々とした空間



天井高 2.5m

・高い天井



天井高 3.0m

・全面吹き抜き



2階分そっくり吹き抜け

・変形天井



変形船底天井



梁を化粧に出した船底天井



一部 折り上げ天井

・ 変形プランの吹き抜け



円形間取り（一部吹き抜け）

・ 一部吹き抜け



くの字型の間取り

・ 和室とのつながり



家族にとって楽しいスペースのリビングをつくりましょう。

